

第6回技術情報検討会議事概要

1. 日 時：平成25年11月18日（月） 10:00～11:10

2. 場 所：原子力規制委員会13階C会議室

3. 出席者：

原子力規制庁

櫻田審議官、山本審議官、大村審議官、市村安全規制管理官（PWR・新型炉担当）、信濃安全規制管理官（試験研究炉・再処理・加工・使用担当）、青木国際課長、山田技術基盤課長、

足立統括、佐久間検査官、柏村安全審査官、栗崎安全管理調査官、梶見原子力保安検査官、竹田原子力規制専門員、牧野企画係長

事務局

吉田安全研究推進室長、小林技術基盤課課長補佐、有吉原子力規制専門員、坂本原子力規制専門員、太田原子力規制専門員

原子力安全基盤機構

平野総括参事、佐藤総括参事

企画部：野口部長、山下次長、安田上席研究員、伊藤主任研究員

検査評価部：工藤次長、白井グループ長

原子力システム安全部：笠原特任参事、畑調査役

核燃料廃棄物安全部：加藤部長

耐震安全部：本橋特任参事

日本原子力研究開発機構

渡邊規制情報分析室長

4. 議題： （1）技術情報の検討について
（2）その他

5. 議事要旨

事務局及び原子力安全基盤機構（以下、「JNES」という。）より、議題（1）「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第5回技術情報検討会議事概要」（資料6-1）、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」（資料6-2）、2次スクリーニングの検討状況（資料6-3）、の説明があり、了承された。

○要対応技術情報とするために更なる調査を必要とする案件（資料6-4）

＜空気と水の相互作用による消火系配管内部での腐食＞

・国内原子力発電所における消火系水配管に関し、準拠する法規、機能試験の状況等を確認した後、対応を判断する。

○2次スクリーニングで終了とする案件（資料6－5）

＜ワンス・スルー型蒸気発生器における摩耗をもたらした伝熱管同士の接触＞

- ・国内SGは、Uベンド部における振れ止め金具（AVB）との摩耗対策、管支持板部における腐食対策が講じられており、渦電流探傷試験（ECT）検査で伝熱管の健全性が確認されている。また、米国のSGとは型式が異なるので、米国のように供用開始早々の伝熱管が接触摩耗するような事象は、国内では発生しにくいと思われる。従って、本課題は2次スクリーニングで終了とする。
- ・なお、米国における本事象の発生原因については情報が十分でないため、引き続き情報を収集する。

○事務局より、「国内トラブル情報」（資料6－6）「要対応技術情報リスト（累積）」（資料6－7）を説明した。国内トラブル情報では、「大飯3号機における主タービングラウンド部からの蒸気漏れ」を説明した。

○参考資料6－2における1次スクリーニング結果に関し、「IN2013-12 計装検出ラインの不適切な勾配」については国内事業者に対する情報周知の状況を確認する。

以上